

大手予備校・河合塾が、学生に能動的な学習をさせるアクティブラーニングを、大学がどの程度導入しているのか調査した。調査を担当した谷口哲也・教育研究部統括チーフは、文系学部の取り組みの遅れを指摘する。



河合塾教育研究部統括チーフ 谷口哲也

近年の大学は「教員が何を教えたか」ではなく、「学生が何をできるようになったのか」が問われるようになった。「学習者中心の教育」を基準にした大学教育の質保証で、その鍵を握るのがアクティブラーニング(能動的な学習)である。

技能育成に効果

アクティブラーニングとは、授業者が一方的に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究やPBL(プロジェクト)/プロブレム・ベースド・ラーニング)、ディスカッション、プレゼンテーションなど学生の能動的な学習を取り込んだ授業形態であり、知識の定着だけでなくスキル・態度などの汎用的技能(シブエネリック・スキル)の育成にも効果がある。河合塾は、4年間の大

主体的に学習「アクティブラーニング」 文系学部 取り組み遅れ

アクティブラーニング(AL)調査で高評価だった
大学・学部・学科(a=進んでいる、b=やや進んでいる、c=普通)

評価の視点(本文参照)		I			
		一般的AL	高次のAL	II	III
大学(※は国立)	学部・学科				
金沢工業	電気電子/機械	a	a	a	a
秋田	機械	a	a	a	b
室蘭工業	情報電子	a	a	a	b
新潟	機械システム	a	a	a	c
福岡工業	電気	a	b	c	a
岡山	機械	b	a	c	a
京都工芸繊維	機械システム	a	b	b	b
宮崎	電気電子	a	b	b	b
九州工業	機械知能	a	b	b	b
金沢	機械	b	a	c	b
秋田	電気電子	b	b	a	b
三重	電気電子	b	b	b	b
産業能率	経営	a	a	b	a
立教	経営	a	b	a	a
創価	経営	a	b	a	a
立命館	経営	a	b	b	b
宮崎産業経営	経営	a	b	b	b
流通科学	サービス産業	a	c	b	b
函館	商	b	a	b	c
創価	経営	b	b	a	b
東日本国際	経済情報	b	b	a	b
武蔵	経済	b	b	b	b

いが大きい。文系はフィールドワーク、プレゼンテーション、振り返りなど、どの程度導入されているかを聞いて調査を行った。工学部、理学部の数。

河合塾 大学教育力の指標に

学科・化学科(理学系)を対象を絞った。

調査は昨年6月、全国の経済系、法学部、工学系、理学系の学部長・学長に質問紙を送り、それぞれ151学部、57学部、111学科、32学科から回答を得た。質問紙では各学年のゼミ・演習などアクティブ項目(グループ学習、ディベート、

教育

「評価の視点I」は、この2つのアクティブラーニングの導入度とそれ

「最大の関心事となる働き盛りの時期が訪れ、やがて「過去」が主たる話題となる年代に到達する。彼女が生涯学び続け、実りある人生を切り開いていくために、私たち大人は何ができるのか。改めて、教育の果たす重要性に思いをはせた。

(玉川大学教授 小松郁夫)

各世代と触れ合い

「一般的アクティブラーニング」では、4年間を通じて導入状況に知識との結合が希薄である。基本的科目の半数以上で講義と演習・実験が有機的に連携しているかどうかを見た。

知識と結合希薄

「高次のアクティブラーニング」では、専門知識との結合が希薄である。PBL授業は学生が活性化し学習意欲が高まるが、文系では専門知識を活用しなくても学生はそれなりに活躍できってしまう恐れもある。「何を学んだか」「何を学ぶべきか」を確認しない取り組みは、お遊びに終わりがかねない。

卒論、法学系1割

今回の調査では、特に文系で学習者中心の教育と質保証に対する意識の低さを感じた。工学系のは卒業論文は必修だが、経済系で3分の1、法学系ではわずか1割。

「評価の視点II」は、文系では卒論が選択制の大学が多いとは聞いていたが、法学部学生の半数以上が選択せず、入試偏差値が高い学部ほど割合が高いのは驚きだった。

「評価の視点III」は、保証は表裏一体だ。アクティブラーニングの導入状況と、学習者中心の教育の定着には密接な関係があり、大学の教育力を評価する指標として今後も注目したい。